

報道機関各位 御中

平成25年10月15日

札幌市立大学・北海道立総合研究機構 公開シンポジウムの開催について

産学官連携が生み出すウェルネスサイエンス
－「地域で」「楽しく」「生き甲斐がもてる」暮らしのために－

2012年、札幌市立大学と北海道立総合研究機構は、互いの研究、技術分野を強化しながら、地域社会、道民生活の向上のために貢献していくことを目的に連携協定を締結しました。

今回、私たちは「身体的な健康」だけでなく「地域で」「楽しく」「生き甲斐がもてる」暮らしをすることを「ウェルネス」と捉え、人々のウェルネスの向上につながる研究成果を持ち寄り、高齢化や人口減少が進行する地域の課題を解決する糸口を探るため合同でシンポジウムを開催することとなりました。

○日時

平成25年11月15日(金) 14:00~17:00 (13:15 受付開始)

○場所

北海道経済センター8階Bホール(札幌市中央区北1条西2丁目)

○主催：札幌市立大学、北海道立総合研究機構

後援：北海道経済産業局、北海道開発局、北海道、札幌市、
公益財団法人北海道看護協会、一般社団法人北海道中小企業家同友会

●開催に関する事前報道、当日の取材

●開催に関する事前報道、当日の取材に関し、特段の御配慮をお願いします。
※講演者へ直接取材を希望される方は、日程等を調整しますので、下記問い合わせ先までご連絡下さい。

○次第及び参加申込み方法はチラシをご参照ください。

○その他

札幌市政記者クラブ、経済記者クラブにもご案内しています。

【この件のお問い合わせ先】

地方独立行政法人北海道立総合研究機構 連携推進部 戸松、西村
〒060-0819 北海道札幌市北区北19条西11丁目(工業試験場内)
TEL:011-747-2900(平日9:00~17:30)
FAX:011-747-0211 E-mail hq-entry@hro.or.jp

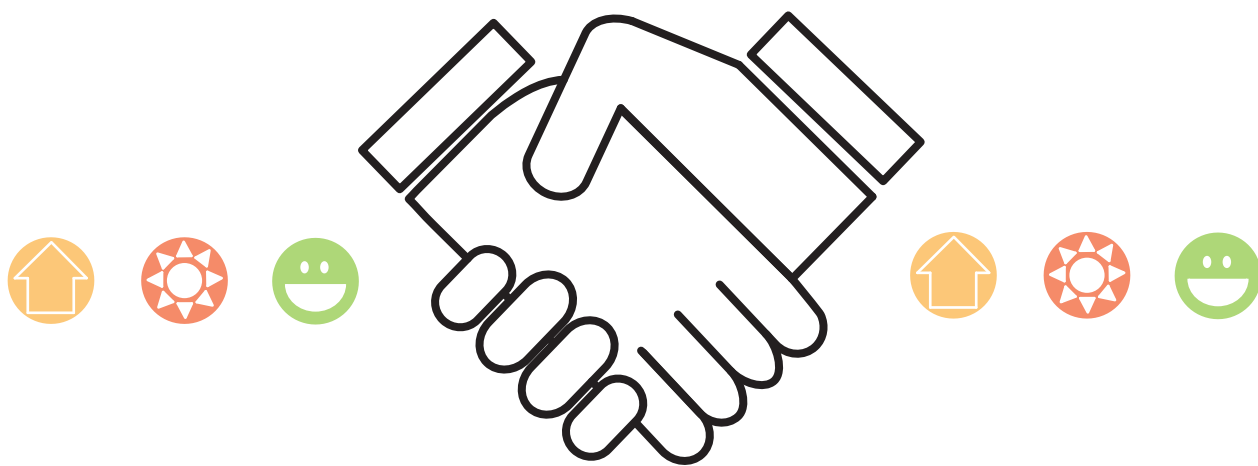
公立大学法人札幌市立大学 地域連携課 上田、長谷
〒005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目
TEL: 011-592-2346(平日9:00~17:30)
FAX:011- 011-592-2369 E-mail crc@scu.ac.jp

札幌市立大学・北海道立総合研究機構 公開シンポジウム

産学官連携が生み出すウェルネス・サイエンス

- 「地域で」「楽しく」「生き甲斐がもてる」暮らしのために -

2012年、札幌市立大学と北海道立総合研究機構は、互いの研究、技術分野を強化しながら、地域社会、道民生活の向上のために貢献していくことを目的に連携協定を締結しました。今回、私たちは「身体的な健康」だけでなく「地域で」「楽しく」「生き甲斐がもてる」暮らしをすることを「ウェルネス」と捉え、人々のウェルネスの向上につながる研究成果を持ち寄り、高齢化や人口減少が進行する地域課題を解決する糸口を探ります。



日時：平成25年11月15日（金） 14:00～17:00

場所：北海道経済センター8階 Bホール（札幌市中央区北1条西2丁目）

対象：テーマに興味のある方はどなたでもご参加いただけます。わかりやすくお話しします。

主催：札幌市立大学、北海道立総合研究機構

後援：北海道経済産業局、北海道開発局、北海道、札幌市、

公益社団法人北海道看護協会（予定）、一般社団法人北海道中小企業家同友会

お申込み 方法

氏名、貴社（団体）名、部署・役職、
連絡先（メールアドレス）、このシンポジウムを知ったきっかけを、
下記までメール、FAX、または電話でお知らせください。

お申込み・ お問合せ先

札幌市立大学サテライトキャンパス

札幌市中央区北4条西5丁目アスティ45 12階

TEL：011-218-7500 FAX：011-218-7507 E-mail：koza@acu-h.jp

11月12日（火）以降のお問合せは、以下へお願いします。

北海道立総合研究機構 連携推進部（担当：戸松）TEL：011-747-2900

お申込み期間

10月16日（水）～11月11日（月）

（当日空席がある場合は予約なしでもご参加いただけます）

産学官連携が生み出すウェルネス・サイエンス

- 「地域で」「楽しく」「生き甲斐がもてる」暮らしのために -

【日時】平成25年11月15日（金）14:00～17:00

■開会の挨拶 北海道立総合研究機構 理事長 丹保 憲仁

■講演



石井 雅博
札幌市立大学
デザイン学部 教授

認知・感性に関する研究とその応用の可能性

- 次世代のコミュニケーション技術を目指して -

インターネットによって、我々は文字、画像、音声、映像などをやり取りできるようになりました。将来的には、もっと臨場感や現実味にあふれた通信が行われることでしょう。これを実現するためには、人間の認知や感性の仕組みを明らかにし、その知見に基づいた通信方法の考案が必要だ、というのが私の考えです。このような視点から話題を提供させていただきます。



吉成 哲
北海道立総合研究機構
工業試験場製品技術部 研究主幹

地域での生活を支援するものづくり

- からだにやさしい製品の科学 -

超高齢社会では、高齢者が生き甲斐を持って働き「社会の担い手」となることが重要となります。そのため、人手による作業を楽にするアシストスーツを開発しました。また、住み慣れた地域で長く暮らしていくためには、生活動線確保のための除雪をはじめ、「日常生活動作」を続けられる環境づくりが必要です。ここでは、自立した生活を支援する製品の開発経緯や人間工学的視点についてお話しします。



スーディ神崎 和代
札幌市立大学
看護学部 教授

自分が望む在宅で療養を受け、終焉の時まで地域で暮らす

療養が必要になった時、多くの人は自宅で療養しながら生活をしたいと望んでいます。十分に実現していないのが現状です。政府も「あんしん 2012」などを打ち出し、その希望に寄り添おうとしています。しかし、道民の望みを叶えるには北海道の自然条件や広域性によるいくつかの課題があります(北海道は在宅死が全国に比べても極めて低い地域)。在宅看護学の視点から、今後改善が必要な課題の明確化と課題解決に取り組んだ一研究事例を紹介いたします。



大柳 佳紀
北海道立総合研究機構
建築研究本部 企画調整部 部長

北海道の地域・まちづくりの課題を考える

北海道では、人口減少、少子高齢化の加速、社会インフラ維持費の増大などにより地域社会が大きく変わりつつあります。しかし、この地域で生活を続けていきたいとの住民の想いとはうらはらに、多くの自治体は「まちづくり」「地域づくり」に対して効果的方策を持つことができないまま新たな時代を迎えます。ここでは、地域社会の実態を見つめ直すことにより、これから求められる方策の手掛かりについて考えてみたいと思います。



■パネルディスカッション

私たちの研究を「地域で」「楽しく」「生き甲斐がもてる」暮らしにどのように役立てるのか、会場の皆さまからの質問に答えながら考えます。

コーディネーター 札幌市立大学 原 俊彦
パネリスト 北海道立総合研究機構 吉成 哲、大柳 佳紀
札幌市立大学 石井 雅博、スーディ神崎 和代

■閉会の挨拶 札幌市立大学 学長 蓮見 孝